

兵庫県における教職員の未配置解消を求める要請署名

紙3506筆、ネット8344筆、合計11850筆提出

「教職員未配置を考える兵庫県民の会」として、6月から取り組んできた「兵庫県における教職員の未配置解消を求める要請署名」を11月末で集約し、合計11,850筆を知事部局総務部秘書広報室総務班の大場班長に提出しました。

署名は昨年度から知事部局が受け取り、知事経由で教育委員会に回ることになります。提出する際に、県民の会の代表の中村治子母親連絡会会長は、「県教委は先読み加配の拡充や、合格者の増員など様々なことにとりこんでいただいているが、未配置の状況は一向に改善されない。子どもと教育をめぐる『県政の問題』としてこの問題をとらえていただくよう、斎藤知事に是非この署名の思いを伝えていただきたい。」と要望しました。

大場班長は「本当に非常に大きな問題と受け止めています。いただいた署名の思いは責任を持って知事にも伝えます。」と対応しました。今年度の署名はこれで終了しますが、運動はまだまだこれからです。未配置問題の解消のために、さらに力を合わせていきましょう。県教委がこの間行ってきた未配置解消の施策についてまとめています。

3年間で積み重ねた署名28704筆、その思いの集約が少しずつ改善の力に！



要請署名は県下各地でとりくまれ、県民の会に寄せられました。

新日本婦人の会は、県下各支部に署名を下ろしていただき、まさに文字通り県下全域でとりこんでいただきました。

「自分の孫が通っている学校も先生が足りないらしい」「先生がいないなんてあり得ない」と署名の輪が広がったそうです。また、ある単組では昨年度から連合PTAにもとりこんでいただいております。今年は単位PTAから書記局に直接署名用紙の追加の電話をいただくなど運動が広がりを見せています。

教職員組合だけの問題とせず、より多くの県民のみなさんとこの問題を共有したいという意味で大きなとりくみになっていることは非常に重要なことです。その結果、3年間の署名の合計は28704筆と3万筆に迫るところまで到達しています。そういったとりくみもあって、右の表のように、毎年少しずつですが、着実に施策は進んでいます。この流れをさらに進め、未配置を解消していくためには、さらにたくさんの声を県民の願いとして、県行政に届けていくことが大切です。署名の力に確信をもって、今後とりくみを広げていきましょう。

教職員未配置解消のための施策

年度	県教委が行った主な施策	
2022年度	12/9	会計年度任用職員（非常勤職員）の報酬面での改善 初号の級を1号上位に
	12/16	臨時教職員の採用試験での加点措置を拡充 経験年数による加点の拡充
	2/7	先読み加配の制度実施 対象校種 小学校、中学校、特別支援学校、高等学校 対象職種 教諭、栄養教諭、養護教諭 対象期間 5月1日～7月31日
	2/8	スクールサポートスタッフの大幅拡充
2023年度	9/28	教員採用試験合格者増員 小・中・特別支援学校、合計で61名増
	11/22	会計年度任用職員に処遇改善 勤勉手当支給 給与改定は4月遡及
	11/22	先読み加配の制度拡充 対象職種 事務職員を追加 対象期間 4月1日～7月31日
	1/10	採用試験の2次試験の実技を廃止
2024年度	9/20	教員採用試験合格者増員 小・高・特別支援学校、合計で53名増 さらに12/24に追加合格者を小学校で50名程度発表
	12/3	先読み加配の制度拡充 対象期間 4月1日～8月31日
	12/23	教員採用試験の常勤の臨時講師の一般教養試験の免除
	2/6	会計年度任用職員の病休休暇は有給に
2025年度	9/12	教員採用試験合格者増員 小学校で62名増、特別支援学校で2名増
	11/25	臨時教職員の2級適用の要件緩和 大卒20年→18年 短大卒22年→20年 時間外在校等時間の削減計画を策定
	12/3	臨時教諭に対する第1次選考試験全部免除の実施他、教職経験者等の確保の改善

引き続き、未配置解消を求める運動を多くの県民とともに進めましょう！！